

第4回（仮称）富里市協働のまちづくり条例検討委員会 会議録

日 時	平成21年3月30日（月）14：00～16：20
場 所	富里市役所本庁舎3階第3会議室
出席委員	久野直衛委員，荒野峰之委員，二上正栄委員，斉藤栄子委員， 大木寿美子委員，前川恵右委員，伊藤友子委員， 草野孝江委員，高澤忠彦委員，渡辺信子委員，石川政江委員， 佐藤征人委員，伊井かつ子委員，森田修仁委員， 小澤和子委員
アドバイザー	千葉大学法経学部准教授 関谷 昇氏
事務局	総務部企画課長，企画課企画調整室長， 企画課企画調整室員（2名）
傍聴者	3名

〔会議次第〕

- 1．開会
- 2．あいさつ
- 3．議題
 - （1）各自のまちづくりへの取り組みについて（その2）
 - （2）委員長等の互選について
 - （3）富里市協働のまちづくりについて
- 4．その他
 - （1）平成21年度日程について
 - （2）議事録について
- 5．閉 会

〔 会議概要 〕

事務局	<p>(1) 各自のまちづくりへの取り組みについて (その 2)</p> <p>この議題は , 第 2 回目の会議で行ったものですが , 伊藤委員が欠席でしたので , 今日改めまして , その 2 という事で , 伊藤委員から協働の考え方や取り組み , 想いを含めて , 自己紹介をしていただきます。</p>
伊藤委員	<p>富里に来てからもう 30 年近くになりますが , 子どもが小さいときには , 子どもを通しての地域とのつながり , 関わりはあったんですけれども , 子どもたちが大きくなって親元から離れたとたんに , 地域との関わり方っていうのが変わってきてしまったんですね。私自身も , やっぱ子どもがいるからお付き合いしてきた部分があって , 子どもが大きくなったとともにお付き合いがすごく希薄になりまして , 地域での自治会活動も私は負担に思う部分が , 楽しみに思う部分よりも多くなりまして , 地域に自治会活動が , 順番みたいに回ってくるんですけれども , 順番でくるのも苦痛だよなと思って , そろそろ自治会を抜けてもいいんじゃないかと思うことが 4・5 年前ぐらいにありました。しかし , いろいろな関わりがない分 , 自治会に入っていたほうがいいだろうと自治会のつながりみたいにやってきました。去年あたりから , 災害のことを考えまして , 自己中心的に思われるかもしれないですけど , ここで , 地震等で , 大きな災害が起きたときに , 自治会に入っていない人は , どういうことになるだろうって思ったんですね。それで , 私 30 年前の宮城県沖地震のときに仙台にいたんです。実際に地震の経験があるんですね。地震のあとに , 電気 , 水道 , ガス全部止まって , 食べるものは何もないし , 炊事もできないし , 小さい子どもを抱えていたときで , どうしようと。夜暗くなるまで , 子どもたちとうちに居て , その日は食べるものがなかったんです。神戸の地震があって , いろんなコミュニケーションがあって ,</p>

<p>アドバイザー</p>	<p>支援の輪っていうものがありましたけど、宮城県沖地震の時には何にもなかったですから、地震の備えみたいなものも私たち自身でもなくて、そのときの経験が、それでよかったのかどうか今でも気持ちの中にあるんですね。やっぱり自治会も煩わしいことがもときとしてあるけれども、地域の連携、連帯というのが必要なんだというのを実感しているんです。そういうこともあって、「協働のまちづくり」って意味はよくわからなかったんですけど、「まちづくり」っていうのは、いろんな意味で必要なんですよ。ただ、私自身がどうやって関わっているのかわからなかったものですから、本当にみなさんには申し訳ないんですけど、勉強させていただくっていう意味でも今回参加させていただきたいと思ったところがありまして、自己中心的な考えに基づいたところもあるんですけど、参加させていただいて、何かのお役にたてればいいかなと思っています。よろしく願いいたします。</p> <p>まちづくりを考えるときに、「何でもかんでも仲良くやりましょう」と言っても、その考えについていけないという人もいるし、それ自体が悪いことでもない。重要なのは、自分なりの考え方、価値観、想い、感覚みたいなものがあり、自分なりに接点を持てればいいという考えでいかないと連携が図られていかない。まさに伊藤委員の話にあったように普段は、自治会活動ではなかなか接点もないし、積極的に貢献しようと思わなかったけれども、震災のような自分の生活が危機的状況に陥ったときに、地域の連帯、地域のつながりの必要性を自分なりに接点を持ちえたというのがある。何でもかんでも一緒にやるというわけではなく、何かあったときにお互いに支えられるようなものがあるのとないのとでは、全然変わってくる。そういうものをどのように作っていけるかが、課題になってくると思います。まちづくりとは、我々の日常生活、生活課題の広範囲にわたるものをどのように克服し、連携協力を多様な形で作っていけるかが問われていると思います。これから議</p>
---------------	---

論をしていくにあたり、議論が拡散していくことが予想されます。今後、どのように交通整理していけるかどうか。例えば、個々の活動団体が自分たちの活動をより活性化していけるかどうかという視点もあるし、それを活性化させていくためには、NPO、ボランティア団体、地縁組織、社会福祉協議会などの既存の団体が相互に連携しうるような視点もある。ある意味では、内容も特性も手法も履歴も全然異なるそういう団体が、相互につながるためには、いったい何が必要なのかが問われてくるでしょう。活動を活性化していくには、どういう支援、環境を整えたほうがいいのか。それは、市民同士の支援、市民と行政との関係で、行政としては何をすべきなのかとか、両者が協力することによって何ができるのかという部分に焦点をあわせるということも必要になるでしょう。

例えば条例ということがこの委員会の課題ですが、条例がどういう形で意味を持っていくのかどうかです。言ってしまうと、条例に盛り込むべきことというのは、ある程度は見えているものだと思います。いろんな自治体で作られていますが、大きな違いがあるわけではない。重要なのは、条例やルールが、富里市でどう生きるか、どう使えるものになるのか、みなさんが活動されていることがどのように発展していけるかどうかです。そういうものをつながっていかなければ、いろいろなものを盛り込んで立派な条例を作っても、結局生きないし、使われない。使われない条例を作っても意味がない。そういう意味で、富里市に生きる条例というのを作っていけるかが課題になってくるかと思っています。

そういうことを考えていく中で、一つおさえていただきたいのは、今の富里市の現状、各地域の現状、各団体、市民活動の現状のどういうところに問題があるのか。要するに課題が共有されて、その課題を解決するためにルール、制度、施策が必要だということになる。逆にそういう課題意識がクリアにならないと、何のために条例や制度を作っているのかという話にいずれなると思います。そうならないために、まずは、課題を押さ

	<p>えて、こういう問題があるから、それを解決するために条例なり制度を作っていくということをこの委員会の中で常に共有して確認しあっていくことが必要になると思います。課題を整理する作業が続いていますが、その辺をしっかりと押さえておくということが、今後の議論の展開に大きな影響をもっていくので、その辺を踏まえながら、引き続き議論の方を展開していければ、私もその中で可能な限り、いろいろなことを申し上げていければと思います。</p> <p>(2) 委員長等の互選について</p>
事務局	<p>役員の互選をさせていただきたいと思いますが、どなたか提案などがありますか。</p>
A 委員	<p>事務局のほうでは考えはありますか。</p>
事務局	<p>事務局で案は持っていますが、ご提案をさせていただいてよろしければさせていただきますが。</p>
B 委員	<p>私は、何回か参加させていただく中で、それぞれの分野の15名の委員がおられる。条例の狙い、スケジュールを見ると、かなりうまく運ばないと難しいと感じます。できれば関谷先生にまとめていただくと一番スムーズにいくと思います。</p>
アドバイザー	<p>私は、アドバイザーの立場で、いろいろ交通整理なり要所要所でコメントなりさせていただければと思います。今後の富里市のルールを作っていくということなので、可能であれば、住民のみなさんの中から選んでいただいたほうがいいのではないかとと思うのですが。これは消極的な意見ではなく、私はいろんな角度からサポートをさせていただければと思います。</p>
C 委員	<p>私は、高澤さんをお願いしたいと思います。理由は、自治会</p>

	<p>の活動の中で99.9%の自治会の加入率なんです。そんな自治会はありませんよね。人生の知識もお持ちですし、是非まとめ役として委員長に推薦します。</p>
高澤委員	<p>ありがとうございます。私は、みなさんのご意見を拝聴し、なるべく意見を言わせてもらいたいという思いがありますので、できればほかの方をお願いしたいと思います。</p>
D委員	<p>私は、高澤さんにやっていただきたいと思います。委員長だからといって意見を言えないわけではないので、委員長だからこそ言えるという部分もあるので、それを十分に生かして引っ張ってやっていただきたいと思います。</p>
事務局	<p>今、高澤さんにご推薦があったのですが、いかがでしょうか。</p>
高澤委員	<p>ありがたい話ですが、忙しい身なので、委員長を欠席せざるおえない状況っていうのが、出てきてしまうような気がします。みなさんにご迷惑をおかけしますと申し訳ないので、ほかにもできる人がいらっしゃったら、ご推薦していただけるとありがたいです。</p>
事務局	<p>ほかにご意見等は。高澤さんは、現状のお仕事等の兼ね合いでというお話でしたが。これはあくまでも互選でございますので、何かほかにご意見等があれば。</p>
A委員	<p>高澤さんは、意見をまとめるのもうまいですし、ほんとはやっていただきたいと思ったのですが、忙しいということですので、もう一人。久野さんを推薦させていただきます。</p>
事務局	<p>ただいま、久野さんということでお名前があがりましたが、いかがでしょうか。</p>

E 委員	久野さんをお願いできれば。
事務局	<p>久野さん。いかがなものでしょうか。</p> <p>いま，高澤さんと久野さんのお名前がお二人挙がりました。では，委員長に久野さん，副委員長に高澤さんをお願いするということでどうでしょうか。</p> <p>〔異議なしという声があり〕</p>
事務局	<p>それでは，委員長に久野委員，副委員長に高澤委員ということで決定をいたしました。委員長に決まりました久野委員からご挨拶いただければと思います。</p>
久野委員	<p>委員長として何をやるのかわからないですけれども，自分としては，取りまとめ役というのではなくて，やはりそれぞれ15人のお立場があるわけですから，できるだけそのお立場で意見をどんどん出していただけるかということに，自分は役にたきたいなと思いますので，ご協力をお願いできればと思います。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。それでは副委員長の高澤委員にお願いします。</p>
高澤委員	<p>できるだけみなさんの意見をお聞きして勉強しながら，久野委員長のサポートをしていきたいと思います。よろしく願いいたします。</p> <p>(3) 富里市協働のまちづくりについて</p> <p>資料1により説明</p>
事務局	<p>グループワークについては，今日初めの方もいらっしゃると</p>

と思いますが、限られた時間を有機的に使うために事務局で考えたのが、グループワークという手法です。不慣れなこともあります。2班にわかれていただいて、それぞれに職員を1人配置させていただきますので、進行等の手助けができるよう進めさせていただきますと思います。

グループワーク

グループワークの発表【別表グループワークシート参照】

〔第1班発表概要〕

協働の課題は、6つ出されましたが、集約すると担い手が少ないということになった。

その担い手作りの方策は、体験の場所、情報交換の場所といった出会える場所が必要ではないかということになった。

〔第2班発表概要〕

協働の課題は、地域交流（市民同士）が不十分、市民と行政とのかかわり、市民自体の課題という3つに分けられたが、項目が多かった「地域交流が不十分」ということになった。

対策のためには、ふれあいの場づくり、イベントの開催、自治会と近所の関係をよくすることによって交流が充実していくのではということになった。

アドバイザー

課題と方策ということで、大きく分けて2つの議論だったと思います。

まず課題は、2班とも共通する部分があり、1つは、担い手です。特に世代の問題があると思います。例えば50代・60代・70代以上の方だと地域との関わりもそれなりにあり、いろんな立場を通じた交流が、少しずつ広がってきているかもしれない。けれども、若い世代になると地域への関心を持っていない。今やっている活動、世代内での広がり、世代間を通じた若者への広がりというのをどう考えていくのかが大きな課題

になると思います。

もう一つは、地域における交流がまだまだ不足している。「近所づきあいという意味での地域交流」、「各種市民活動やボランティア活動の相互のつながり」、「町全体でのつながり」という部分が弱い。そこをどのように克服していくのかが今日のご報告の大きな集約点だと思えます。

あとは、行政との関係が、今後議論していく課題になると思えます。例えば、行政が出会いの場を作ってくれば、市民はそこに参加することによって交流できるし、情報を得ることができる。その場作りを市民でしてくれ、となるとこれは動きたくても動けないという声を聞きます。そういう意味で、行政と住民との関係が一つの課題です。もちろん市民が作る場というものもあるが、行政として場や機会をどのように作れるかが広い意味での課題となるのかなと思えます。

それに対し、方策は、担い手を作るということ、地域交流を活性化させていくこと。出会いの場というものをどのように作れるかが広い意味での大きな目標の一つになると思えます。情報の交換や、先ほど表彰という話も出ましたが、自分たちがやっていることをアピールする場があると、やった本人たちも達成感を味わうことができるし、そういうものを知ることで刺激を受けたり、波及効果も期待できる。そういうことを通じて、次なる人材を発掘したり、働きかけをしたりできる。

また別の観点でいうと、地域住民相互では、ある種の閉鎖性というものです。例えば、その地域にずっと住んでおられる方と新しく越されてきた方の文化や価値観の違いです。それが、壁としてお互いにあると、その一線を越えるとお互いに違和感がある。そういう壁をどう越えられるかが出会いの場において重要になると思えます。そういうことを克服するということを念頭に置きながら、考えていかないと問題解決には向かっていかないと思えます。

また、ボランティア活動、市民活動をやっている方々は、間違いなく素晴らしいことをやっています。仮に活動をやっている

ない人から見れば、いい活動だけど、自分との接点を持ち得えないといいことをやっているのにおのずとできてしまう壁みたいなものがあり、その壁をどのように克服していけるのかも出会いの場を通じて考えていっていかなくてはいけないことだと思えます。こういうことを乗り越えていけるような雰囲気づくり、場や機会づくり、仕組みづくりということが、問われてくるのかなと思えます。

広報の問題も少し出てきましたが、自分たちがやっていることが人に伝えられない。逆に情報を欲しがっているのに自分たちに生きた情報として伝わってこない。情報のある程度整理し、いろんな人たちがいろんな立場で受け止められるような情報を作り直していくというのが必要になっていく。生の情報をぶつけられても自分の中で対応しづらければ、そこで止まってしまふんです。そういうことを越えていけるかが、情報とか広報とかという部分ですごく大事になってくると思えます。そういうことは、市民自身にできることと行政ができることと役割分担というところに出てくると思えます。その辺のあり方も今後どのように詰めていけるかが問われてくると思えます。

また、出会える場ということで、イベントをやるということも重要だと思えます。市民活動とかまちづくりは、楽しくないともそもそも続かないというところがあります。深刻な問題があっても、みんなが深刻に何かやっていくと気分的に息詰まりを抱えてしまう。だからいろんなイベントを通じて、雰囲気づくり、楽しみ、もちろん深刻な問題も含めて考えていけるかが問われてくると思えます。

次に、オープンスペース、いろんな施設という場の問題です。例えば、まちづくりで言われるのが、公民館などの公共施設です。そういうものをどう活用していくのか。どこの自治体も公共施設は、ある所管課が担当していて、それぞれ縛りがある。使う側からすると使い勝手の悪い。市民が公共施設をどうやって使うということもありますが、それを管理している行政側がそういう縛りをどのように克服していけるかという課題もあ

わせて出てくるわけです。その辺でも行政と住民との関係が問われてくるのかなと思います。

それから自治会の役員の担い手という話がありましたが、かなり負担が多く、特定の人に何でもかんでもいってしまう現状があると思います。その辺をどのように負担を減らしていけるのか、やるべきことをみんなでどう分かちあっていけるかが問われてくる。おそらく今、自治会は自治会で自己完結していて、その中で問題解決をしている。また、ボランティアはボランティアで、市民団体は、市民団体で自己完結している。市民団体や、既存の組織などその枠組みで人材にせよ資金にせよ考えている部分があり、行政には縦割りがある。だからその範囲の中で考えようとするから、人手も足りない、資金も足りないという話になってしまうわけです。そこをどのように克服していけるかが、今後の仕組みづくりや制度づくりにおいて問われてくるところです。

そのことを踏まえたうえで、次回以降に向けて少し考えていただきたいのが、今日の範囲で申し上げると担い手づくりや地域交流をめぐり、富里市、各地域において担い手づくりとか交流というものが、どういう形でこれまで取り組んできたのかという実例を市として、市民として、地域としてこれまでどのように課題に取り組んできたのかというのを少し洗い出していくといいのではないかと思います。それは、いろんな立場、いろんな団体において、これまで課題を巡ってそれなりに取り組んでいて、功を奏している部分、あるいはそうじゃない部分といろいろあると思います。何でもかんでも申し上げるかという、こういう課題があるから協働のまちづくりをしていかななくてはいけないんだという大枠があります。協働っていうのは、全くゼロから始めるんじゃないんです。これまでやってきたことのどういうところに意義があり、どういうところが不足しているか。その辺をちゃんと情報整理、交通整理したうえで、これまでやってきた部分はもっと生かしていき、足りていなかった部分は仕組み、制度環境、雰囲気を作ることによって、乗

り越えていこうと。これまでやってきた部分と新しく補完的に作らなきゃいけない部分とうまく整理しながら、今後議論を重ねていけるかがすごく大事になってくると思います。

この委員会で議論したことを地域住民のみなさんに発信していくときに課題が整理されていけば、この委員会で議論したことも幅広く地域住民に共有されていく。だからそういうことを今後していくためにもこれまでやってきたことを洗い出しながら、その長所と短所を出していくということを重ねていくといいのかなと思います。

条例を検討する委員会でグループワークを入れていくという手法は、私も初めての経験ですので、事務局的に苦心した結果だと思いますが、こういう形で積み重ねていくことにより、今日示された「共通認識事項」の柱が少しずつ埋められていくと思います。今日はその第一歩という形で位置づけられるのかなと思います。今日は、課題と目指すべきまちの姿を話し合われたということで、多分今日の議論だけで出し尽くされていないですが、先ほど、私が申し上げたようなこれまでのことを含めてまとめあげていくと富里市の今の現状が、より現実に即した形で浮かび上がり、富里市に何が必要なのかが見えてくると思います。共通認識事項の2以降についてもそれに応じて積み重ねていき、今後議論を重ねられるといいと思います。

事務局

ありがとうございました。それでは今日の議題につきまして、これで終了とさせていただきます。なお、先生の話もありましたように共通認識事項の今日、ご議論いただきました部分は、今後引き続きという議論していただくようになりますので、よろしく願いいたします。